

令和7年度 夢風船 事業報告書

1 総括

利用者の殆ど（8割程度）は10年以上若しくは10年近く夢風船に通っており、また職員も同様に半数以上が10年以上若しくは10年近く夢風船で勤務している。利用者と職員の関係性に安定感が感じられ、日々の活動も安定的に行えている一方で、慣れからくる気の緩みや、距離が近いからこそ、気づかない課題やお互いへの配慮不足に気を付けなければならない。実際に7年度は3件の誤薬、怠薬事故が発生しており、大きな健康被害はなかったものの事業所全体で再度気を引き締めていく必要があると感じた1年であった。形骸化の懸念に対しては、自己点検のため各階のグループリーダーの配置を交換する試みを実施した。これにより各階の活動に違った視点を入れ活動や支援の再点検を行うと共に、各職員がより多くの利用者の特性を理解するように取り組んだ。11月からの取り組みであり、まだ5か月が経過した段階だが、活動内容や支援の見直しという点ではいい機会になったと感じている。その他の大きな課題として、利用者やその家族の高齢化等に伴う生活基盤の変化への対応が挙げられるが、ハイリスク世帯（介助者が一人や介助者の高齢化の世帯）の緊急時を想定したシミュレーションを作成し、急遽介助者が不在となった場合の対応事項や現在できる準備などをまとめた。今後定期的に状況を確認、必要に応じて更新を行い、リスク軽減を図っていきたいと考えている。

2 事業概要

- | | | | |
|------------|---------------------|-----|------------|
| 1) 事業所名 | : 夢風船 | | |
| 2) 事業種別 | : 生活介護 | | |
| 3) 所在地 | : 東京都小平市小川町2-1931-1 | | |
| 4) 経営主体 | : 社会福祉法人未来 | | |
| 5) 利用定員 | : 20名 | | |
| 6) 利用現員 | : 28名（令和8年3月31日現在） | | |
| 7) 法人認可年月日 | : 平成14年12月11日 | | |
| 8) 事業開始年月日 | : 平成26年11月1日 | | |
| 9) 職員 | （令和8年3月31日現在） | | |
| | 管理者 | 1名 | （兼務） |
| | サービス管理責任者 | 1名 | （常勤） |
| | 生活支援員 | 17名 | （常勤換算14.8） |
| | 看護職 | 1名 | （常勤） |
| | 嘱託医 | 1名 | |

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援。
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
- 3) 安心と希望の持てる生活。

4 基本方針

- 1) 日中活動の保障
- 2) 豊かな生活の支援
- 3) 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 4) 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- 5) 利用者への相談支援

6) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① 資源回収作業
- ② 弁当箱配達回収作業
- ③ 公園清掃受託作業
- ④ シュレッダー作業
- ⑤ P C 入力作業
- ⑥ 折紙製品作成事業
- ⑦ その他受注作業

2) 生活支援事業

- ① 入浴（毎日）
- ② 運動プログラム（ウォーキング・腹筋運動等）
- ③ バイタルチェック（朝・入浴前）
- ④ 余暇支援事業（週 3 日程度）

3) 行事等

- 4 月 利用者永年勤続表彰式
- 5 月 運動会
- 6 月 オリジナル T シャツ作り
- 7 月 ドライブ
- 8 月 川遊び
- 9 月 ドライブ、アイスクリームを食べる
- 10 月 一泊旅行（山梨県）
- 11 月 焼き芋大会
- 12 月 演劇鑑賞
- 1 月 ドライブ、お茶会（ぜんざい）
- 2 月 ドライブ
- 3 月 ドライブ、自動販売機で飲み物を買う

6 日 課

8 : 3 0 ~ 9 : 0 0	送迎
9 : 0 0 ~ 9 : 4 0	送迎・活動（バイタルチェック、運動、入浴）
9 : 4 0 ~ 9 : 5 0	朝礼
9 : 5 0 ~ 1 1 : 3 0	活動 ・作業（資源回収作業／弁当配達回収作業／清掃作業／P C 作業／室内軽作業） ・運動プログラム（ウォーキング／歩行訓練等） ・入浴
1 1 : 3 0 ~ 1 3 : 3 0	昼食・休憩
1 3 : 3 0 ~ 1 3 : 3 5	ストレッチ体操
1 3 : 3 5 ~ 1 3 : 4 0	昼礼
1 3 : 4 0 ~ 1 5 : 2 5	活動（午前と同じ内容）
1 5 : 2 5 ~ 1 5 : 3 5	片付け
1 5 : 3 5 ~ 1 5 : 4 0	お茶
1 5 : 4 0 ~ 1 5 : 5 0	終礼
1 5 : 5 0 ~ 1 6 : 0 0	退所準備

16:00～17:10 送迎、清掃、記録作成
17:10～17:30 職員打合せ

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

1 F—

(1) 利用者の主体性の向上に向けた活動

朝礼等の司会の他、利用者が参加する場面を設ける。また、作業内容や方法等について、自ら考える場面を増やし、活動に向けた意欲と主体性の向上を図る。

【成果と課題】

朝礼等の司会や利用者自らの予定の報告等は長年の取り組みで定着している。多くの利用者が長年通所しており、安心感を持って意思表示や自主的な活動への取り組みが行えているように感じる。朝礼等の司会以外で新たな取り組みは行っていない。

2 F—

(1) 利用者の安全確保

利用者個々の特性を理解のうえ、見守りの強化や精神的な安定に向けた環境設定やコミュニケーションにより、離接や他害行動、自傷行為などの防止を徹底する。

【成果と課題】

利用者の多くが環境になれて来た令和2年度以降全般的には落ち着いた状況で活動が行われている。他害、離接等の問題行動は消失していないが、職員による利用者の特性理解や関係性構築により不安原因の解消や事故防止が概ね行われている。令和元年度の利用者の一時行方不明事故以降、大きな事故に至った事案は発生していない。ヒヤリハットの記録から個々の利用者の不穏化の傾向分析を行うことなどで、その都度原因の解明と対策を行っており、効果が出ている一方で、不穏化の原因がわからないこともまだ多い。

1・2 F 共通—

(1) 利用者の生活全般にわたる支援の充実。

本人や家族の高齢化等による生活基盤が脆弱化しつつある利用者等に対して、相談支援の充実、衛生保持、健康管理、日常の軽微な事柄への支援、専門機関への連絡調整、将来の居住環境整備に向けた準備など幅広く柔軟な支援を行う。

【成果と課題】

緊急時の4時以降の延長支援などのニーズに対して柔軟な対応を行っているほか、2名については後見人との連携により支援を行っている。利用者28名の内11名はGH入居者、1名は施設入所支援の利用者だが、GH入居者は年々増加傾向にあり、関係機関との連携の重要性が年々増してきている（現在のところ、関係機関との連携は良く取れている）。GH入居者が増える一方で、GH入居者以外での家族の高齢化や一人親世帯のハイリスク世帯への対応が大きな課題といえ、一人親や家族の高齢化等のハイリスク世帯と思われる4名全員に対して介助者が急遽不在になるなどの緊急時を想定したシミュレーションを作成し、職員会議にて確認を行った。日中活動においては全般的には問題行動が減少した状況を保っている一方で、3名の利用者の問題行動が昨年度から徐々に頻回化しており、今年度になりその傾向が顕著となっていた。他害、離接などの危険な行為ではないが、支援拒否や大声を出すなどの行動が見られており、家庭や関係機関と連携し原因究明、支援方法の検討、環境設定、服薬等の様々な対応を試行錯誤しながら行った。年度前半に所属グループの変更を行った結

果、2名の利用者の行動が改善されたが、残り1名は大きな効果を得るに至っていない。

(2) 各利用者の可能性の発見と伸長にむけた活動（作業）の開拓と支援

活動や生活場面において、自分で考える機会の保障や継続により生活能力や作業能力の向上を図る。また様々な経験を通して能力や興味関心の発見とその伸長を目指すことで、一人ひとりがやりがいをもって生活できるように支援を行う。

【成果と課題】

作業の継続により、流れを理解し、自発的に作業に取り組むことは全般的に定着しており、多くの利用者は利用開始後数年で継続力や集中力の向上が見られている。また、コミュニケーション能力、身辺自立、身体機能の維持向上のための取り組みなどは、利用者の状況に応じてその都度変更するなど丁寧に行っている。成果が見えにくい部分も多いが、学習による能力向上や機能低下の防止など等の効果が感じられる。

(3) 健康管理の充実

- ① 新型コロナウイルスの感染症など感染症対策を徹底する。
- ② 一人ひとりの健康管理や衛生保持、また身体機能の維持向上を丁寧に行うとともに、疾病、けが等への迅速な対応を行う。

【成果と課題】

- ① 手洗い、消毒、換気、検温、マスクの着用など基本的な感染対策を実施したが、1月に施設内でインフルエンザの感染拡大が起きた（「9、事故等報告」詳細記述）。
- ② 毎日のバイタルチェック、入浴時の身体チェックによる健康管理や身体機能維持のためのリハビリ、また肥満防止、健康保持のためのウォーキングや腹筋運動等を継続的に実施している。ただし利用者によって運動量に偏りがあったことから、5月以降昼礼前に音楽に合わせてストレッチや運動を行うプログラムを開始した（毎日5分間程度）。当初はあまり関心を示さず、参加しない利用者が半数程度いたが、徐々に浸透し、数週間後には多くの利用が参加するようになった。令和7年1月から12月までの体重と血圧の変動をグラフ化し、利用者の健康状態を確認すると共に、利用者に配布した。肥満傾向のある方については、やや体重が増加傾向にある方が6割となった（10名中6名増加、3名減少、1名横ばい）。また、利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施し、24名が受診した。大きな反省点として怠薬2件、誤薬が1件発生したことが挙げられる（「9、事故等報告」詳細記述）。決められた事項を遵守しなかったことや確認不足が原因であり、チェック表の改定、マニュアル作成などの再発防止を行った。6年度の誤薬事故1件に引き続き起きており、マニュアルの遵守徹底、危機管理意識の向上が求められる。

2) 人材育成

- (1) リーダー層の育成
- (2) PDCAサイクルの実施による利用者支援スキルの向上。
(利用者の心情理解、問題行動への冷静な対応)
- (3) 職員間の連携協同体制の強化（内部牽制強化）
- (4) サービス管理責任者、強度行動障害支援者等の資格取得促進

【成果と課題】

- (1) 日々の業務を通じて、職員の指導や事業管理等に主体的に取り組んでいる。
- (2) 日々のミーティングのケース検討の実施や、支援計画を意識した記録についての継続的な取り組みにより、PDCAサイクルの考え方は定着している。全般的に利用者と良

い関係が築けている。

- (3) 職員間のコミュニケーションは良く取れており、連携協働については考え方が定着している。総括に記載のようにグループリーダーの配置交換による自己点検を実施したが、今後他の職員の配置交換を段階的に実施し、より多くの職員が幅広い業務が行える体制を作っていく予定である。
- (4) サービス管理責任者基礎研修 2名受講
強度行動障害支援者養成研修（基礎） 1名受講
強度行動障害支援者養成研修（実践） 1名受講

3) 経営管理

(1) 介護給付費の安定確保

- ① 1日平均利用者20人を目標とし、利用者の安定通所を図る。（令和6年度実績1日平均利用者22.6人、28人在籍、通所率76.2%）
（具体的方策）
・送迎場所や時間など柔軟な対応を行う。
・健康状態の確認など家庭やグループホームとの連絡調整を密に行う。
- ② 職員配置数を維持し、職員配置体制加算、重度障害者支援加算の算定を継続する。

【成果と課題】

- ① 1日平均利用者数は22.4人となり、目標を上回った。利用実績は昨年度比で0.2人減少したが、2名の利用者の障害支援区分が上がったことで、介護給付費収入は、1億1,380万円となり、昨年度より220万円増額となった。
- ② 加算に必要な研修受講者数を満たし、重度障害者支援加算を継続した。

(2) 月次試算による状況分析

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。緊急的支出に対しては、充当資金の調達のため計画の優先順位を設定する。

【成果と課題】

月次試算分析により月々の経営状態は把握されている。緊急的な支出も発生しておらず、計画的な予算執行が行えた。

(3) 節電等による経費削減

水道光熱費や消耗品など、活動に影響が出ない範囲で節約意識を共有し、経費削減に努める。

【成果と課題】

使用していない場所の照明等の消し忘れは、依然みられている（職員ロッカー室、階段、2F相談室、脱衣所換気扇及びエアコン、1F事務スペース共用PCの電源等）。備品購入に伺い書を使用することで無駄な支出は抑えられている。

8 その他の成果と課題

- 1) 療養介護施設入居者1名の月1回の体験受け入れは、感染症に対する入居先の施設の方針により令和2年3月を最後に実施できていない。

9 事故等報告

- 1) 6月 昼食時に日頃服薬した筋弛緩剤以外に咳止め薬が臨時に追加となったことで、筋弛緩

剤の服用を忘れた。健康被害はなかった。ダブルチェックなどの服薬に関する取り決めに遵守しなかったことが原因である。再発防止策として、個別の服薬マニュアル作成とチェック表に確認者の記名欄を設ける対応を行った。

- 2) 8月 昼食後薬の内の安定剤の錠剤0.5錠が残っているのに気づかず服用しなかった。薬袋に残りがないかどうかを丁寧に確認しなかったことが原因である。再発防止策として、これまで実施していた服薬時のダブルチェックの他、飲み終わった袋のダブルチェック、チェック表に確認者の記名欄を設けるほか、服薬マニュアル作成を行った。
- 3) 12月 昼食時の筋弛緩剤を他の利用者の服用させてしまった。健康被害はなかった。
- 4) 1月 インフルエンザB型が施設内で流行し、利用者10名、職員2名が罹患した。重篤な状態になる者はいなかった。
- 5) 2月 利用者1名が缶洗浄作業中に缶で右手人差し指を切り、2針縫う怪我を負った。再発防止策として洗浄作業前の職員による危険物確認と作業時の厚手のゴム手袋着用を行うこととした。

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前9時～午後4時
(3) 年間延開所日数 241日間 (前年度 242日)
(4) 平均活動時間 7時間

11 利用状況

- 1) 利用者延人員 5,387人 (前年度 5,459人)
- 2) 1日平均利用人員 22.4人 (前年度 22.6人)
- 3) 体験実習者延人員 7人 (前年度 7人)
- 4) 1日平均実習人員 0.03人 (前年度 0.03人)
- 5) 実習者実人員 3人 (前年度 5人)

12 利用者状況(令和8年3月31日現在)

1) 年齢

20歳以上30歳未満	15名
30歳以上40歳未満	5名
40歳以上50歳未満	4名
50歳以上60歳未満	4名

2) 障害の状況

愛の手帳1度	1名 (内身障手帳所持 1名)
愛の手帳2度	21名 (内身障手帳所持 3名)
愛の手帳3度	1名 (内身障手帳所持 1名)
愛の手帳4度	1名 (内身障手帳所持 1名)
身体障害者手帳1級	5名 (内愛の手帳所持 2名)
身体障害者手帳2級	4名 (内愛の手帳所持 3名)
身体障害者手帳3級	1名 (内愛の手帳所持 1名)

障害支援区分 平均障害支援区分 5.6 (前年度 5.5)

- 3) 通所手段 送迎車利用 27名 (内家族送迎併用2名)
家族送迎 3名 (内送迎者併用利用2名)

- 4) 支援実施自治体 小平市 18名 他区市町村 10名

5) 性別 男性 22名 女性 6名

1.3 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 3,889円 日給 : 243円
(令和6年度1人 月額 : 4,019円 日給 : 250円)

1.4 余暇支援実施状況

1) 参加者 実20名 延べ410人(前年度実績 実21名 延べ438人)

2) 延実施回数: 120回 (前年度実績130回)

月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4月 :	9回	39人
5月 :	11回	40人
6月 :	10回	33人
7月 :	10回	39人
8月 :	11回	38人
9月 :	10回	35人
10月 :	11回	32人
11月 :	10回	33人
12月 :	12回	39人
1月 :	10回	30人
2月 :	6回	19人
3月 :	10回	33人
合計	120回	410人

内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数	(前年度実績)
ボウリング	23回	116人	(24回 118人)
調理	23回	109人	(24回 112人)
ドライブ	25回	87人	(25回 89人)
散歩	13回	23人	(16回 28人)
ゲームセンター	11回	28人	(13回 43人)
入浴	11回	11人	(12回 12人)
映画動画鑑賞	6回	7人	(9回 11人)
散髪	6回	22人	(5回 14人)
スイカ割り	1回	6人	(1回 10人)
食事	1回	1人	(1回 1人)
合計	120回	410人	(130回 438人)

1.5 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.6 防災

自衛消防訓練を年2回実施した。